



ウクライナが侵略されるなかでの **第3回** 常任理事会 開催

情勢で活発な討論！2022定期大会議案骨子提案される！

第3回常任理事会が、3月19日（土）水戸市見和市民センターで開催され、日本平和委員会事務局次長岩月さんも参加してくれました。コロナ禍でもあり午後1時から2時間余当面の運動方針と6月の定期大会に向けた総括・方針等が提起されました。議長は、「平和の会しもつま」の青木勇さんをお願いしました。ロシアによるウクライナ侵略が大きな話題となりました。

ロシアへ抗議するスタンディングなど県内各地からの報告では、とりわけ新婦人などの女性たちが熱心に取り組み、年配の方よりも若い高校生などの反応が良かったこと、ウクライナ国旗の「黄色と青のリボン」を付けていたらどこで手に入るのかと声をかけられた話が紹介されました。また、児玉正文さん（つくば市 平和委員会会員）がポーランドにご滞在で、ウクライナやポーランドの状況を「平和かわら版」（本号）に寄稿していただいたこと、ウクライナへの募金を直接送金できないかという発言もありました。

その中で、目の前の「侵略NO」「戦争NO」は当然だけ

れど、その先の訴えをどう提起するのも話し合われました。とかくテレビなどではウクライナの軍事的状況ばかりに焦点が当てられがちだが、この侵略の本質はロシアの「国連憲章」違反であり、本当に止めさせる力は軍事力でなく、世界中の市民と政府が力を合わせるのではないかと認識を深くしました。

この話に重なるように、現在取り組んでいる「憲法改悪を許さない全国署名」についても意見が出されました。今の状況で訴えると、ともすれば「日本も憲法を改正して防衛力の増強をはかるべきだ」と反対する人に遭うかもしれない。その際、「互いに軍事力を拡大すれば必ず戦争につながる」「武器を持たずに話し合い、とにかく戦争をしないことが大事」と訴えられるか、これが大きな分かれ道と思って頑張る必要があるということで一致しました。

《報告：神原 要》



寄稿レポート

ウクライナへのロシアの侵略

—ポーランドからの報告—

児玉 正文さん



2月24日、ロシアのウクライナへの侵略がはじまりました。侵略が始まるとすぐに戦争反対の集会が行われました。その後、侵略は拡大しており、ロシア軍がウクライナの首都キエフを奪取しようとしています。

私は、昨年8月からポーランドのウッチ（Łódź）に滞在しています。日本を出るときにこんなことが起きるとは全く思っていませんでした。

ウッチは人口がポーランドで3番目に多い都市で、ポーランドの真ん中あたりにあり、ウクライナとの国境からかなり離れています。戦争が始まるまでは、ウッチ空港とウクライナのキエフの間には、定期便が飛んでおり、



片道数千円で行ける身近な場所でした。また、ウッチの工場では多くのウクライナの方々が働いています。

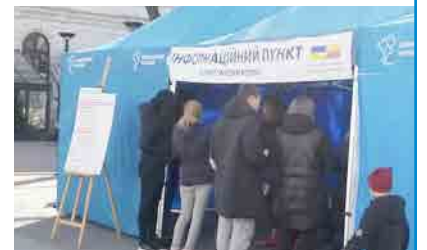
私自身は、ロシア軍がポーランドを直接攻撃する事態は起きていないので、身の危険はないと思っています。しかし、ポーランドの方々も怖いと話している状況であることは間違いありません。日本からきている人の中には帰国された方々もいます。

ウクライナからポーランドに多くの方々が避難されています。正確な数字は分かりませんが、ここウッチにも多くの方々が来られています。

ポーランド政府とウッチ市などはインフォメーションセンターを設け住居、病院、学校などの手配などを行なっています。私のアパート近辺でもウクライナの方を見かけることが多いです。

今日（3月13日）も、ウッチ・フェブリチュナ（Łódź Fabryczna）駅には避難者と思える方々がいまいました。ウッチで最もにぎやかなピョートルコフスカヤ通りでは炊き出し

裏面へ→





が行われていました。何を待っているのかは分かりませんが、建物の入り口で多くの方が長い列を作っていました。昨日も同様でした。街の通りではウクライナ

の方々がベンチに座ったり歩いたりしていました。学校での受け入れや大学寮への入居なども進んでいるとのこと。ウクライナの方々気持ちを思うと私には写真を撮りませんでした。もしかしたら、どんどん撮って世界に広げて欲しいと思っているかもしれません。

一刻も早く、ロシアが侵攻をやめ戦争を終結することを祈っています。平和の大切さを強く感じています。

「戦争・原発」いらない 石岡平和の会

3月11日(金)石岡平和の会は「ロシアのウクライナ侵

攻に抗議」「東海第二原発いらない」のスタンディングを6号国道沿いなどで行いました。戦争はもちろんですが原発を攻撃するなど狂気の沙汰、改めて原発の存在リスクを痛感し、「核との共存はできない」と強く訴えるものです。この行動は「東海第二原発いらない首都圏連絡会一斉行動」に賛同したもので今回で3回目です。青森を始め、首都圏の61箇所で行われ、6月には第4回も予定されています。《報告：増山みゆき》



東海村「原子力調査特別委員会」が「実効性のある避難計画作成」請願を否決！

～避難車両は1台しかない。140台不足している～

東海村村議会「原子力調査特別委員会」(略称/原特委)は3月1日(火)、「311を忘れない東海村アクション」から提出されていた「実効性のある広域避難計画策定には慎重を期し、住民合意の確証を得ることという決議の採択を求める請願」を審議しました。

原特委には4つの請願が出されています。2月1日(火)は、日本原電も加入している東海村商工会議所から提出されていた「速やかな広域避難計画の策定を求める請願」のみを審議し、議論不十分なまま強行採決。最大会派である「新政とうかい」の賛成多数によって採択。そのため東海村平和委員会と県平和委員会事務局は、強権的な採択に抗議し、「実効性ある避難計画策定」を求める街頭宣伝(2月5日/6日/20日/27日、3月6日/14日)をおこないました。「新政とうかい」の数の力による委員会運営を批判しました。

1日は、「新政とうかい」に属する委員長の委員会運営に対する批判、傍聴者への配慮、議事のすすめ方などについて時間を要し、「新政とうかい」も世論を意識してか無理やりな「請願」不採択までには至りませんでした。

14日(月)原特委再開。委員長が体調不良を理由に欠席し、「新政とうかい」所属の副委員長が議事進行。冒頭「個々の意見を出してもらい、採択したい」と述べ、採決する意思を表しました。「意見交換をなぜしない。すす



め方が間違っている」との指摘も出されましたが、「請願について意見を出していない委員から発言」としました。「人間には完ぺきなものは出来ない。臆することなく計画を作してほしい(請願反対)」「実効性を高めつつ計画を策定すべき(同反対)」「最初から完ぺきなものはできない。完ぺきに近いものを作ろうと言った(同反対)」などが出されました。

請願賛成の立場の議員は「不十分なものを作っても住民が安心すると言ったが、何をもって安心と言えるのか」「村立東海病院には避難車両は1台しかない。実際には141台の車両が必要とされている。計画は出来たと言っているが、140台不足している」「東海村には原発があり、はじめから事故等のリスクがある。30km圏外まで逃げるだけの計画であってはならない。人格権尊重の立場で考えてもらいたい。3万7千人余の全住民を避難させることが出来るのか。逃げられなければ被爆する」と訴えました。

議長役の副委員長は「意見が出そろったので、採決します。賛成4人。反対11人。不採択とする」と言い、討論のまとめ、課題の整理もしませんでした。この間約1時間。「実効性」とは何か問われないうまま、「人格権の保障」についても置き去りにされてしまいました。

日本原電は、2月28日(月)、今年12月完了予定としていた工事を24年9月に延期すると発表しました。いつ終わるとも知れない工事費用に約2千4百億円も使い、いつ14市町全部が避難計画を策定するかも見通しがありません。老朽化した原発の廃炉を決断すべきです。

《報告：篠原 睦》